

論 説

現代メキシコの選挙動向と政党システムの再編（上）

サリーナス政権における選挙プロセスを中心に

松 下 冽

目 次

はじめに

第 章 制度的革命党（PRI）のコーポラティズム型選挙とその支持基盤

1．PRI内諸部門間の力関係

(1) 部門別割当制

(2) 選挙区の2類型

2．PRI得票の全般的傾向：選挙基盤の構造的弱体化

第 章 メキシコ社会の変容とコーポラティズム型動員メカニズムの衰退

1．急速な都市化の進展

2．都市におけるPRI

3．都市 民衆運動の出現・展開と88年選挙前の諸状況

第 章 1988年大統領選挙の衝撃

1．PRIの選挙「敗北」と動員メカニズムの危機

(1) 背景

(2) コーポラティズム型動員メカニズムの危機

(3) 都市部におけるPRI支配の崩壊

2．88年選挙結果と労働組合

3．88年選挙の歴史的意義（以上本号）

第 章 1991年中間選挙：PRIの回復（以下第15巻2号）

1．サリーナス大統領の選挙戦略

2．PRIの回復

3．カルデナスとPRDの姿勢

第 章 1994年選挙

1．1994年選挙に向けた各党の対応

2．1994年選挙結果

3．1994年選挙の意味

第 章 ヘゲモニー政党制から多党制へ

1．政治再編の視点と基軸

2．政党制の構造的変化へ

3．1997年選挙：競争性とサブ政党制

おわりに

はじめに

2000年のメキシコ大統領選挙において国民行動党（Partido Acción Nacional: PAN）の候補者、ビセンテ・フォクス（Vicente Fox Quesada）が当選した。われわれはメキシコを長期間支配してきた制度的革命党（Partido Revolucionario Institucional: PRI）の終焉という歴史的結末を目撃したのである。このPRI支配体制の終わりに向けてのプロセスは、基本的にはサリーナス

(Salinas de Gortari, Carlos) 政権 (1988 ~ 1994 年) の誕生を契機に本格化した。サリーナス政権は、今日、世界を席卷しているネオリベリズム政策を積極的導入し、北米自由貿易協定 (NAFTA) を誕生させたという点で、また他方で、メキシコにおける市民社会の台頭とその展開に直面したという点においてもメキシコ現代史の転換期を画した。本稿は、サリーナス政権期を中心に据えて、メキシコの選挙プロセスと政党制の再編との関連を検討する。このことは、ヘゲモニー政党としての PRI の衰退・崩壊の過程を具体的に確認し、メキシコの国家コーポラティズム体制解体の特殊性を認識し、総体として権威主義から民主主義への移行といった諸問題の考察につながる。

メキシコにおいて選挙および選挙過程と政党再編問題がとりわけ重要性をもっているのは、メキシコ政治体制の特殊性によっている。この点は他のラテンアメリカ諸国の民主化過程と比較してみれば明らかである。メキシコが現代史において権威主義体制を維持してきたとはいえ軍事的支配を経験しておらず、6年ごとの大統領選挙をはじめとして、まがりなりにも形式上選挙が実施されてきた。70年代以降、選挙改革を通じて野党の選挙参加の拡大が見られ、政治活動の自由化がはかられてきた。しかし、問題はメキシコにおける選挙が政権党 PRI を選出する儀式的場となっていたことである。メキシコの選挙分析の専門家、シルビア・ゴメス・タジルは、メキシコの選挙が支配政党の優位を危険にさらすことなく、一般的には「民主的」と認められる多くの諸指標に従っていないにもかかわらず、「民主的」であることを誇示していた政治体制を強化できたこと、を強調して次のように述べていた。

メキシコにおける選挙は、「政治権力をめぐる競争を解決するための方法」としてではなく、政権党内部の諸部門や諸潮流と自立的社会諸勢力との交渉のための空間として定期的に行われてきており、政治官僚が6年ごとに再編され、お互いに合意を達成すること」を目的に行われてきた。そのため、選挙は統治グループの個人や政治的構成を革新するための政治的メカニズムとしても機能してきたが、この政治体制は、「それに基盤を与えてきた社会的協定とのあらゆるイデオロギーの結びつきを失うことなく、出現してきた社会諸アクターを取り込む絶えざる改編能力のおかげで広範な安定性を達成してきた」と分析してる¹⁾。

それにもかかわらず、1980年代以降、徐々にこの政治体制とその「社会的協定」は複雑な紛争と解体の過程に入ったことはよく知られている。その背景にはさまざま要因や契機の複合的影響が考えられるが、メキシコにおいて制度化されている選挙が、この過程を促進する役割を果たすという側面も無視できない。選挙と政治体制との関係は多面的に検討されなければならない。民主化の比較政治研究で知られるホワイトヘッドが指摘するように、メキシコの政治システムは、また性格上独自の弱点をもっていたのである。

「大統領の6年交替は、そのシステムの主要な弱点である。なぜなら、その交替の時期が来ると、大統領職に集中していたすべての権限と指導力がカモフラージュなしに、権威

主義的メカニズムを通じて次の関係者に委譲されなければならないし、強大な志願者に確実に引き渡されなければならないからである。このことは、はじめからこのシステムにとって危機の源泉であった。…他の視点からすると、体制の定められた日程は、極めて厳密で予想可能な道筋を通じて野党を誘導し、不安定を回避し、あるいは希薄化するのに役立つ。しかし、それはまた、政界内で一定の時期に有効に企てられた挑戦を避ける方法がないことを意味している」²⁾

以上のような課題と問題関心から、本稿は次の構成を取りたい。まず、はじめにPRIの従来行われていた選挙動員形態とその支持基盤を概括する(第 章)。次に、1980年代以降の社会変容と政治諸過程を踏まえ、1988年大統領選挙結果の背景を検討する(第 章)。続いて、1988年大統領選挙と1991年中間選挙、および1994年大統領選挙のそれぞれについてその結果の分析と意義を検討する(第 章、第 章および第 章)。最後に、以上の考察に基づき、メキシコの政党システムの再編過程の特徴と見通しを分析する(第 章)。なお、本稿の課題と問題関心からして、全般的な選挙過程と選挙結果の長期的動向を把握することに力点を置いていること、また、「民主主義への移行」研究に不可欠な多面的研究課題に言及できなかったこと、選挙分析に関するアプローチと資料についてはかなり先行研究に依拠したことを断っておきたい³⁾。

第 章 制度的革命党(PRI)のコーポラティズム型選挙とその支持基盤

1. PRI内諸部門間の力関係

(1) 部門別割当制

1946年設立以来、PRIは革命過程によって引き起こされた社会的再建と結びついていた諸結果の残滓を今だ残していた。そして、まだ農村の特徴を示していた社会において、政治的代表を統制・序列化し、結集させるために構想された政党として、また、ラサロ・カルデナス(Lázaro Cárdenas: 1936-40年)が1938年に設立したメキシコ革命党(Partido Revolucionario Mexicano)を継承するかたちで誕生した。

設立当初から、PRIの三部門(労働者部門、農民部門、一般部門)の間では選挙候補者の選出・指名に関する協定が結ばれていた。その協定によれば、対応する州や地域における各部門の特別の影響力に従って確立されていた「割り当て」により選挙区が配分された。こうして、いわば、コーポラティズム型モデルと自由民主主義の形式との間の特殊な共生関係が生み出された。現実には、諸部門の候補者は、その社会的グループの機能的代表として選出されていた。しかし、形式的には、彼らは領域的に組織された普通選挙に基づいた選挙を通じてその地位を獲得していた⁴⁾。

PRI内部の諸グループ間の候補者配分基準，諸グループ間の比重はどのようになっていたのか。この点を見ることにより，PRI内部における各部門別の力関係（議員数・得票率）が分かる。グアダルペ・パチェコはこの分析についての優れた成果をあげている。以下は彼の研究に依拠している⁵⁾。

連邦下院議員候補者配分におけるPRIの部門別・サブ部門別の比重は，明らかに一般部門（sector popular）の比重が際立っている（表1）。労働者部門（sector obrero）では，メキシコ労働者連合（Confederación de Trabajadores mexicanos: CTM）が同部門の候補者のほぼ3分の2を独占していた。1982年および1985年のCTMの候補者の増加は，明らかに他のサブ部門からの吸収による。このことは，同部門の他の組合の犠牲のもとにCTMがその影響力を拡大したことを示している（表2）。

表1 出身部門別の連邦下院議員（1人区）へのPRI候補者
（1979年，1982年，1985年）

部 門	候 補 者 数			割 合（％）		
	1979	1982	1985	1979	1982	1985
労働者	70	75	72	23.3	25.0	24.0
農 民	48	45	47	16.0	15.0	15.7
一 般	182	180	181	60.7	60.0	60.3
合 計	300	300	300	100.0	100.0	100.0

（出所） Pacheco, 2000, p.36.

表2 労働部門内の連邦下院議員（1人区）へのPRI候補者

サブ部門	1979		1982		1985	
	(人数)	(割合)	(人数)	(割合)	(人数)	(割合)
メキシコ労働者連合（CTM）	45	64.3	51	68.0	51	70.8
革命的労働者・農民連盟（CROC）	11	15.7	12	16.0	11	15.3
鉱山労働組合	4	5.7	5	6.7	6	8.3
メキシコ労働者地域連合（CROM）	2	2.9	3	4.0	3	4.2
その他	8	11.4	4	5.3	1	1.4
合 計	70	100.0	75	100.0	72	100.0

（出所）表1に同じ。p.37.

表3 農民部門内の連邦下院議員（1人区）へのPRI候補者

サブ部門	1979		1982		1985	
	(人数)	(割合)	(人数)	(割合)	(人数)	(割合)
全国農民連合（CNC）	46	95.8	44	97.8	46	97.9
独立農民連合（CCI）	2	4.2	1	2.2	1	2.1
合 計	70	100.0	75	100.0	72	100.0

（出所）表1に同じ。p.37.

表4 一般部門内の連邦下院議員(1人区)へのPRI候補者

サブ部門	1979		1982		1985	
	(人数)	(割合)	(人数)	(割合)	(人数)	(割合)
連邦官僚	37	20.3	37	20.6	30	16.6
地方官僚	31	17.0	27	15.0	38	21.0
PRI官僚	36	19.8	37	20.6	30	16.6
書記局代表	0	0	11	6.1	1	0.6
全国教員労働組合(SNTE)	12	6.6	15	8.3	14	7.7
国家公務員労働組合連合(FSTSE)	11	6.0	8	4.4	10	5.5
全国革命的な女性協会(ANFER)	11	6.0	9	5.0	12	6.6
全国革命的な青年運動(MNJR)	2	1.0	1	0.6	2	0.6
企業家グループ	12	6.6	10	5.6	13	7.2
軍人グループ(陸海)	9	4.9	6	3.3	8	4.4
全国大衆組織連盟(CNOP)の官僚	11	6.0	11	6.1	13	7.2
全国小土地所有者連合(CNPP)	4	2.2	4	2.2	1	0.6
その他	3	1.6	3	1.7	4	2.2
不明	3	1.6	1	0.6	5	2.8
合計	182	100.0	180	100.0	181	100.0

(出所)表1に同じ。p.38.

表5 下院連邦議員(1人区)候補者の多数擁立組織

サブ部門への諸組織	候補者数			割合(%)		
	1979	1982	1985	1979	1982	1985
メキシコ労働者連合(CTM)	45	51	51	15.0	17.0	17.0
全国農民連合(CNC)	46	44	46	15.3	14.7	15.3
連邦官僚	37	37	30	12.3	12.3	10.0
PRI官僚	36	37	30	12.0	12.3	10.0
地方官僚	31	27	38	10.3	9.0	12.7
全国教員労働組合(SNTE)	12	15	14	4.0	5.0	4.7
全国大衆組織連盟(CNOP)の官僚	11	11	13	3.7	3.7	4.3
企業家グループ	12	10	13	4.0	3.3	4.3
革命的労働者・農民連盟(CROC)	11	12	11	3.7	4.0	3.7
全国革命的な女性協会(ANFER)	11	9	12	3.7	3.0	4.0
国家公務員労働組合連合(FSTSE)	11	8	10	3.7	2.7	3.3
軍人グループ(陸海)	9	6	8	3.0	2.0	2.7
その他	28	33	24	9.3	11.0	8.0
合計	300	300	300	100.0	100.0	100.0

(出所)表1に同じ。p.40.

農民部門 (sector campesino) では、全国農民連合 (Confederación de Nacional Campesina: CNC) がほぼ候補者全部を独り占めしている (表3)。

一般部門に関しては、候補者の半数以上が連邦官僚 (funcionarios federales)、地方官僚 (funcionario locales)、PRI機構内官僚の3サブ部門出身である。これらに続いて、全国教員労働者組合 (Sindicato Nacional de Trabajadores de la Educación: SNTE)、国家公務員労働者組合連合 (Federación de Sindicatos de los Trabajadores al Servicio del Estado: FSTSE)、全国革命的な女性協会 (Asociación Nacional Femenina Revolucionaria: ANFER)、企業家、全国大衆組織連盟 (Confederación Nacional de Organizaciones Populares: CNOP) の官僚といった多かれ少なかれ類似したサブ部門全体から候補者の3分の1を送り込んでいる (表4)。

3部門全体のより重要な12のカテゴリーを取り上げ、その影響力を比較すると、下院議員の候補者の点で最も影響力ある組織はCTMである (表5)。表5を注意深く見ると、二つの大きな極が存在している。一つはCTMが主導する極である。すなわち、CTM、革命的労働者・農民連盟 (Confederación Revolucionaria de Obreros y Campesinos: CROC)、SNTE、FSTSEで、それらの候補者総数は、1979年が79、82年に85、85年は86であった。第二の極は連邦官僚 (funcionarios federales) と地方官僚 (funcionario locales) のふたつのカテゴリーである。これらの候補者総数は1979年に68、82年に64、85年は68でこれらの官僚数は候補者の5分の1以上を数えてる。

候補者数だけ見ると、CTMのグループは官僚グループ以上に強みに思える。しかし、「官僚グループはそうした状況に対抗バランスをとっている。なぜなら、彼らは国家機構の支援を持っており、まさに立法権力に対する執行権力の団結点であるからである」⁶⁾。いずれにしても、二つの強力な勢力、CTM官僚と連邦官僚はPRI内で共存し、かつ対立している。この問題と関連して注意すべきことは、1946年に設立されたPRIは1987年のそれとはその政治的内実において同じものではないという事実である。政治諸勢力は別の方法で配置される傾向にある。その結果、新たな権力ネットワークがPRI内に形成されていたのである⁷⁾。

(2) 選挙区の2類型

それぞれの下院議員候補輩出部門の支配と関連して、パチェコが重視している別の基準は選挙区の2類型である。すなわち、ひとつは、3回の選挙プロセス (同上の1979年、1982年、1985年) において、PRI候補者が同一の部門から出ている選挙区 (彼はこの選挙区を「要塞 bastión」と呼ぶ) である。もう一つは、3回の選挙のうち2回までが、同一部門からPRI候補が出ている場合で、「交渉選挙区」(distrito negociado) である。

結論的に言えば、労働者部門によって支配された選挙区全体のうち、66%が「要塞」選挙区であり、農民部門では29%、一般部門では73%が「要塞」選挙区であった (表6)。さらに、

表6 部門別・支配様式別の選挙区(1人区)分類

	要塞選挙区	交渉選挙区	合計
労働者部門	47 (66%)	24 (34%)	71 (100%)
農民部門	13 (29%)	32 (71%)	45 (100%)
一般部門	130 (73%)	49 (27%)	179 (100%)
部門外			5 4.2%
合計	190	105	300

(出所) 表1に同じ。p.43.

一般部門の「要塞」選挙区の比重が大きいこと(300選挙区のほぼ5分の2を支配)、労働者部門と一般部門は「要塞」選挙区の割合では類似し、その割合は農民部門よりもずっと大きいこと、交渉された選挙区における部門間の交換は、大部分、中間選挙(1979年, 1985年)に起こっていることが特徴として挙げられる。

さらに、彼が注目するのは、労働部門と農民部門の間では實際上、交渉はほとんど行われず、それぞれが一般部門と交渉すること、一般部門は一種の部門間を結びつける役割を、つまり、お互いに交渉しない二つの勢力間の蝶番の役割を果たしていることである⁸⁾。

2. PRI 得票の全般的傾向：選挙基盤の構造的弱体化

よく知られているように、PRIの選挙基盤は農村で強固であり、野党は都市に選挙基盤を持っていた(表7)。だが、野党に不利な全国選挙における不平等な選挙区制が存在していた。たとえば、人口の半分以上が都市に住んでいるにもかかわらず、300の1人区のうち117選挙

表7 選挙区類型別(D.F., 都市型, 混合型, 農村型) PRI 選挙支持
(PRI総得票に対する割合)

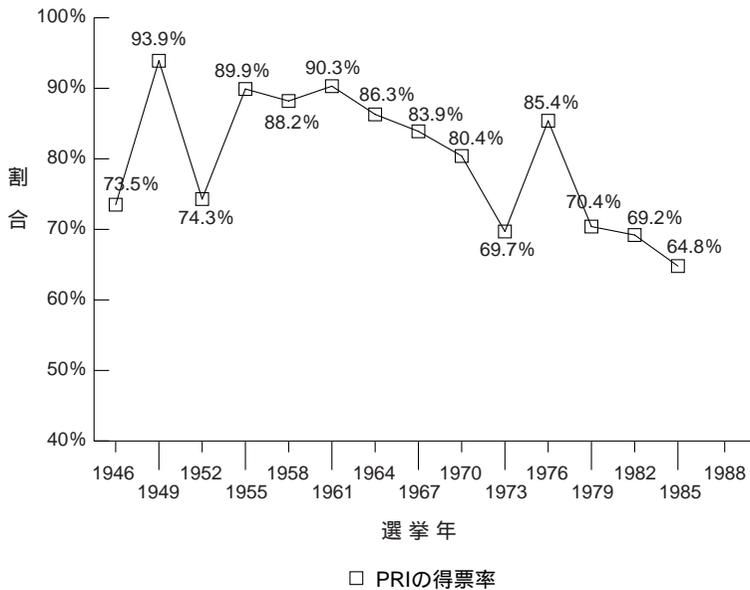
選挙区類型	1979 (%)	1982 (%)	1985 (%)	平均 1982-1985 (%)
連邦区(D.F.)	46.7	48.3	42.6	45.9
D.F.以外の都市型	55.5	58.4	51.2	55.0
混合型	77.3	73.4	68.9	73.2
農村型	85.4	82.1	79.5	82.3

(出所) Molinar Horcasitas, 1991. p.144.

表8 期間別の選挙動態

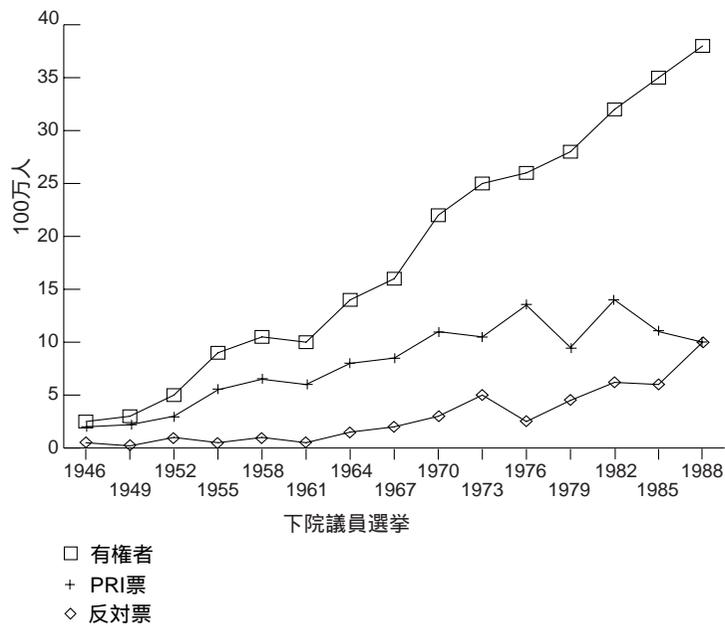
期間	有権者の増加率	PRI票の増加率	野党票の増加率
1946-1961	+291%	+266%	+10%
1964-1976	+91%	+65%	+77%
1976-1985	+36%	-10%	+186%

(出所) 表7に同じ。p.163.



(出所) 表 7 に同じ。p.159.

図 1 PRI得票率の推移 (下院議員選挙)



(出所) 表 7 に同じ。p.162.

図 2 有権者増加の推移

区だけが都市型と考えられている。この117選挙区の全有権者名簿は全国の有権者名簿の39%を代表しているに過ぎない⁹⁾。

PRI得票率は1949年の90台%から1985年の65%へとかなり大幅な減少傾向を見て取れる(図1,表8)。時期的な特徴を捉えてみると、第1に、1946~61年期は極めて不安定で、52年まで大きな得票率の高低があり、58~61年は緩やかな揺れが見られる。

この時期、有権者増加の曲線とPRI得票曲線とは類似している。PRIの増加は有権者の増加に続いていた。1955年には女性有権者の登録が行われたため、この時期、有権者は291%増大し、PRI得票は266%増加した。他方、野党票はわずか10%の増加に過ぎない。

こうして、ヘゲモニー政党制が構築され、確立された時代である(図2)。

第2期は1964~76年の時期である。一般的にPRI得票率の平坦な低下傾向が見られる(76年は対立候補がなかった)。PRI得票数はまだ上昇を続けているが、有権者の増加曲線には従っていない。PRIの有権者数は91%増加しているが、その得票はわずか65%増加である。一方、野党票は77%増大している。

第3に、1976~85期にはPRI得票率の低下傾向が再開し、著しい低下が進んだ。そして、野党のダイナミズムが見られる¹⁰⁾。有権者数の増加は36%で、PRI票は10%減少した¹¹⁾。

1979年と1985年はPRI敗北の選挙区は4~11に増大し、得票率10%以下での勝利は12選挙区で、20%以下は43選挙区にのぼる。これは競争関係の相対的増加だけでなく、正統性の問題にもなっていたでもある。

こうしたPRI選挙基盤の弱体化は構造的タイプの原因を持っており、近代化の諸現象とPRI票との間には否定的結びつきがあることは明らかである。1960年代、PRIは多くの住民から支持を受けていたと思われるが、彼らは低い就学年限、農業への従事、農村生活といった特徴を持っていた。1980年代にはこうした状況は変化した。1980年代には、社会を十分に代表する諸政党は都市の大衆、高学歴大衆、工業やサービス部門労働者に訴えることが要求された。

第 章 メキシコ社会の変容とコーポラティズム型動員メカニズムの衰退

1. 急速な都市化の進展

最近の50年間のメキシコは、空間的な人口配分の点において基本的転換を経験した(表9参照)。住民の一部はますます都市センターに集中するようになった。この社会的居住環境の変化は政治領域にも影響をもたらした。教育の普及、職業構造の変化、文化的多元性の増大、社会的諸実践の共同体的帰属からの離脱、そして市民に対する影響力の多様性は、都市の拡大に伴う現象であり、社会的多元主義が出現する諸条件を創出した。そのことは、当然、新たな政治的代表的形態を求めることになる。これらの変化は、支配的な政治的諸制度、とくに政党に

表9 メキシコ50年間(1940年~1990年)の変容

年	1	2	3	4	5	6
1940	19.6	78	65	20	48	10
1990	81.5	28	24	60	3.5	235

1: 総人口(単位, 100万人)

2: 農村人口(1万人以下)

3: 農村従業者人口(%)

4: サービス業従事者人口

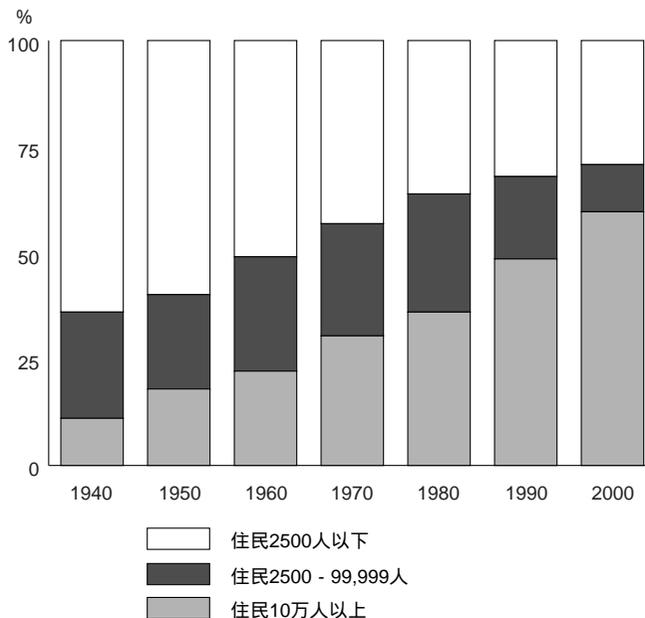
5: 非識字人口(%)

6: 道路(単位, 1000km, 非舗装を含む)

(出所) Roett, Riordan, 1993, p.144.

圧力を行使するための大規模な参加と動員を生み出した。これらの諸政党は存続を望むならば変化への適応能力を示さなければならなかった。

急速な都市化現象はこれらの変化の中で基本となった。10万人以上の都市に集中する人口の絶対的・相対的数は、1940年の11%から、1980年に40.9%に急増し、さらに、1990年には54%になった。他方、2500人以下の住民が住む地方の割合は、1940年の65%から、1950年、54.7%に、1980年には、33.7%に減少した。1990年にはさらに28%へと減少した(図3)。急速な都市化過程は、極めて分極化した人口配分を示した。都市人口はごくわずかの都市に、そのなかでもとりわけ首都に集中した。1980年、メキシコ人口の5分の1はメキシコ市首都圏(zona metropolitana de la ciudad de México: ZMCM)に集中した。他方でその3分の1は2500人以下の町や地方に分散して住んでいた。中規模都市(10万~100万)も最近20年間に都市人口



(出所) 表1に同じ。p.164.

図3 自治体規模別人口配分(1940年-2000年)

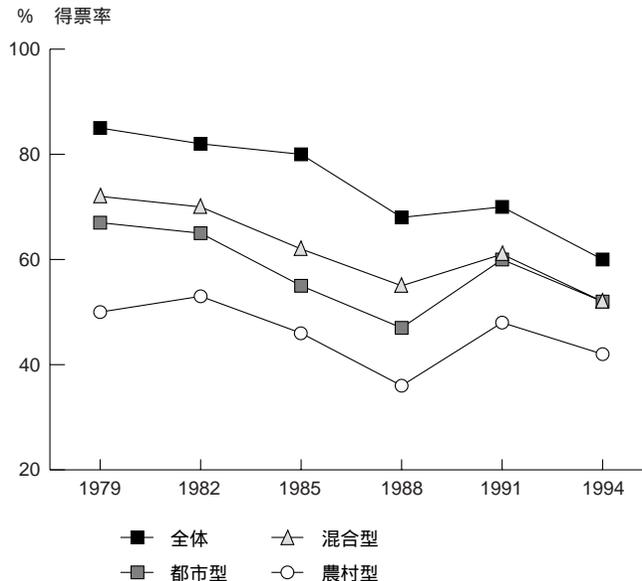
の居住地域の重要なセンターとしてその役割を強化している¹²⁾。

2. 都市におけるPRI

メキシコにおいて、民衆を選挙に動員する形態は多様である。政治的枠組としてはPRIの三部門とそこに統括された諸サブ部門が制度化されているが、その制度化はパトロンクライアント関係を通じて重層化され、ネットワーク化されている。とくに、農村では「物質的報酬を交換とする政治的従属に基づいた関係」¹³⁾と規定されるクライアントリズムが浸透していた。そこでは、このクライアントリズムが農村カシクスの形態をとり、PRIにとって基本的に有利な基盤を形成していた。都市化を背景にした農村住民の都市への移住は、農村における人間関係や動員形態を都市にも持ち込むことになったが、都市化や基礎教育の普及、そして工業化を含む急激なメキシコの政治・社会の変容に伴いPRIの選挙活動および組織形態は合致しなくなっていく。1980年代に入ると、国際環境の急激な変化や経済分野での再編成も多くの市民に否定的影響を与え、PRIの正統性そのものの存在が問われるようになってくる。

こうした状況は特に都市におけるPRIの得票に反映した。PRI票の減少傾向は全国的に類似したものであったが、農村型および混合型地域と異なって、都市においてこの傾向は最低水準にあり、深刻に受け止められていた¹⁴⁾。

PRI投票配分構造の比較分析は、伝統的統制メカニズムの機能不全を明らかにしている。



PachecoによるCFF及びIFEのデータからの計算。
選挙区平均得票。
(出所)表1に同じ。p.312.

図4 選挙区類型別のPRI得票率(1979年-1994年)

1979～88年の時期，都市におけるPRIの投票曲線は低い割合の地位に移動した。1979年，45～50%の得票地域はしばしばあった。しかし，1988年，25～30%の得票地域の事例も少なからず存在した。混合型および都市型選挙区では，より低い得票率への移行も記録された。他方，1979年，90～100%との得票を得た事例もしばしばあった。1988年，こうした事例は9事例のみであり，79年には極めてまれであったが，53選挙区では51%以下の得票率であった¹⁵⁾(図4)。

3. 都市—民衆運動の出現・展開と88年選挙前の諸状況

以上述べたように，PRIの伝統的組織モデルは既に現行の政治的・社会的諸条件に一致しなくなっていた。都市を中心として広がった政治的・社会的・経済的変容は，他方で新しい社会グループを形成することになった。同時に，権力機構内部での対立，そして分裂を引き起こした。この点について，パチェコは次のように述べている。

「政治的社会化のメカニズムが，とりわけ都市において修正を蒙り始めた。他方，社会的多様化は，単なる職業的帰属を超えた利害をめぐって結びついた新たな社会的グループの出現や拡大を生み出した。すなわち，都市中間層，都市の青年層，農業日雇い労働者，自己のエヒード資産を失って都市に定着した数百万の小作人，行商人，そして結局，経済のインフォーマル部門や地下部門と結びついた全ての人々のような新しい社会グループを生み出した」¹⁶⁾

こうした新しい社会グループの出現は，経済的危機，対外債務，国際経済への統合といった経済的環境の変化が背景にあり，「旧来の恩恵的・請負的国家モデル」の継続が実行不可能になったことに起因した。そして，諸資源の不足と公共支出政策の再編は，コーポラティズム型保護機構への供給を困難にした。さらに，重要な要素は政治エリート内の分裂である。それは，相互の関連する二つの領域で現れた。すなわち，政治家とテクノクラートの分裂，および連邦政府と地方勢力との間の対立である¹⁷⁾。

これらの要素全体が1988年にコーポラティズム型投票が蒙った崩壊を説明している。実際，一方で，都市化の過程は人口の空間的配分の変化をもたらした。それは，コーポラティズム型部門別システムの作動に影響を与えた。他方，メキシコの多様な農村地帯において，投票のコーポラティズム的支配の地域システムは，過去10年間にすでに不十分にしか機能していなかったが，この地域における野党の弱体な競争力のおかげでその弱点は認識されなかった。しかし，上述の投票支配は政治家とテクノクラートとの政治的分裂および地方勢力と連邦権力の仲介者との亀裂によって不安定化した。こうして，コーポラティズム型モデルの危機が都市化の過程及び農村の選挙マシンの機能低下と結びついたと言える。

また，多様な形態と性格をもった社会運動が徐々に出現してきたことは，メキシコの政治空

間を広げ、公共空間を生み出した意味で重要であった。その点で、ミゲル・デラマドリ政権の後半期(1985年9月から88年12月)に起こった諸事件の豊かさと複雑さは、PRI設立以後のメキシコ政治史における最も複雑な時期の一つとして確実に記録されよう。1985年のメキシコ市の大地震、それを直接的契機として出現した大変激しい民衆運動の展開、1986年学生運動、反原発運動、環境保護運動、女性運動など多様な社会運動が拡大するとともに、反中央、反政府の感情の拡がりも無視出来ない高まりと拡がりを遂げた¹⁸⁾。

結局、1985～88年の3年間に、政治的、イデオロギー的、党派的、選挙的、経済的な多様な諸要素が結合し、ヘゲモニー的政党制の最終的危機に流れ込んだ。次に考察する1988年大統領選挙結果はこうした諸状況の帰結であった。

第 章 1988年大統領選挙の衝撃

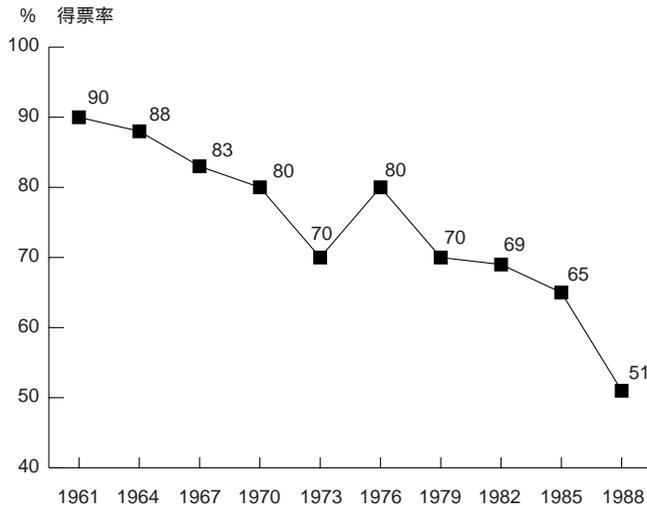
1. PRIの選挙「敗北」と動員メカニズムの危機

(1) 背景

1988年大統領選挙において、サリーナスは不正選挙の疑惑を払拭できないまま、党史上最低の50.36%の得票でかろうじて大統領の地位を確保した。正統性の喪失を背負った政権の出発であり、6年間の任期の困難が予想された。民主国民戦線(FDN)¹⁹⁾のカルデナスは30.76%、PANは17.07%であった。サリーナスは、バハカルフォルニア・ノルテ、メキシコ、ミチョアカン、モレーロスの4州とD.F.でクアウテモック・カルデナスに敗北した。とくに、メキシコ、ミチョアカン、モレーロスの各州ではカルデナスは絶対多数を確保した。

下院議員選挙でもPRIの衰退は際立っていた。PRIの得票率は1982年の69%から51%の急落した(図5)。PRIはヘゲモニー政党であることをやめ、選挙領域では優位政党に転換したことは明らかであった。

PRIの実質的な意味でのこの歴史的「敗北」とその後も続くこの党の解体過程には、様々な要因の複合作用が考えられる。ここではとりあえず、前に述べたことと重複する点もあるが、G.タジルが指摘している諸点を箇条的に列挙しておくことにとどめる。第1は、10年以上前からのPRIの指導者や社会諸グループの地盤低下。第2に、メキシコの世界経済的転換が新たな政治アクターや諸政党、市民運動の形成をもたらしたこと。同時に、PANやPRI、そして全国的労働組合などの既成の諸アクターも変化を遂げたこと。第3に競争的選挙の成長。第4に、国際的金融諸機関によるメキシコへのネオリベリズムの押しつけ。それは、とくに社会支出の削減、国営企業の売却、そして一般的には国家の切り詰めに意味した。第5に、1982年以降政府を統制してきた政治エリートの腐敗による弱体化、社会基盤の孤立化(あるいは、PRIのその社会基盤の放棄)。麻薬、暴力、政治犯罪に関連した諸勢力との結合。第6に、中間諸部



(出所) 表 1 に同じ。p.83.

図 5 PRIの全国得票率 (1961年-1988年)

門および中小企業家を含めた住民の大部分の客観的な貧困化。第7に、近代的サリーナス派を終わりにした経済危機。それは1982年への後退を意味した。すなわち、巨額の対外債務と賃金の犠牲の12年後、生産的工場施設の解体や失業の増大を伴った諸条件の悪化である。第8に、メキシコ革命のイデオロギー的原理を持っていた統治グループの明らかな分裂。第9に、国家主権の客観的喪失。最後に、代表者も調停メカニズムもなしに、周辺化された社会からの暴力的な急襲。すなわち、全システムを消耗させる糸をたぐり始めた力として、1994年1月に現れたサパタ主義のコートピア²⁰⁾。PRIの統治能力、支持調達能力、正統性など全般的な衰退と解体の過程に、タジルが挙げるこれらの所要因がどのように相互作用したのかは別に論じなければならない課題である。

(2) コーポラティズム型動員メカニズムの危機

選挙におけるPRIの動員システムは、この党の各部門に割当てられた候補者に依拠していたことは前に述べた。各部門に割り当てられた候補者数はPRI内でのそれぞれの部門間の力関係を反映している。

1967年まで、農民部門は連邦下院議員候補者名簿の半分を占めており、その年以降は全体の4分の1の割当にすぎなかった。1979年以降はその割当は6～8ポイント以上減少した。他方、一般部門と労働者部門はその割当を著しく増大させている。前者は、1961年の35%から1976年の55%へ、後者は同時期、7%から18%に拡大した。一般部門は候補者名簿のほぼ60%を、労働者部門は23%を確保した。1988年選挙において、全300連邦選挙区のうち労働者部門出身

の候補者は22%(66名)を占め、農民部門出身の候補者は18%(54人)、一般部門からは60%(180人)の候補者が出ている²¹⁾。

1988年におけるPRIの諸部門の達成をより深く分析するために、パチェコは次の三つの変数に関して諸地域の分類を作成している。1988年に獲得された投票の特徴、人口の都市-農村配分、1979年、82年、85年、88年における諸地域の下院議員候補者を体系的に支配したPRI部門、である。こうした票の特徴、部門別コントロール、都市-農村人口配分の視点からから1988年選挙を見ると次のようになる。

まず、諸選挙区での平均投票率は46.7%であった。PRIが獲得した平均得票率は51.3%、PANのそれは17.8%、FDNは28.6%であった。これらの変数の選挙区別配分は異質的であり、その結びつきは極めて多様である。PRI支持票の特徴の単純化されたビジョンを得るために、300選挙区を次の6グループに分類する(A)。すなわち、

PRI-ヘゲモニー選挙区(18%)：PRIが極めて高い得票を獲得し、PANとFDNは極めて低い得票しか獲得できない選挙区。

PRI-PAN選挙区(9%)：PRIが安定的多数を獲得しているが、PANの存在も重要である選挙区。

PRI-FDN選挙区(26%)：PRIが安定的多数を獲得しているが、FDNの存在も重要である選挙区。

PAN-PRI選挙区(7%)：PANがPRIを越えるか、それに近い得票を獲得しているが、接近しており、一方、FDNの得票は少数である選挙区。

FDN-PRI選挙区(17%)：FDNが安定的多数によってPRIに勝っており、一方、PANの得票は低い選挙区。

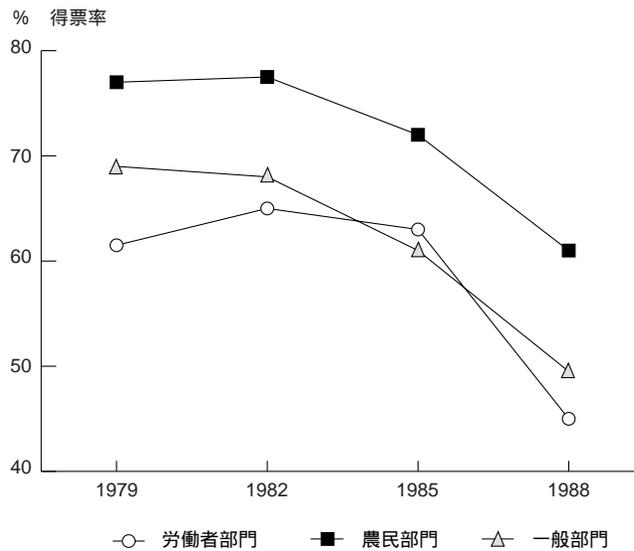
ブルーラルな選挙区(23%)：三つの勢力が極めて等しい選挙区。

次に、人口配分構造(1980年人口統計)に関連して、選挙区を分類(B)すると、都市型選挙区は39%、混合型選挙区は28%、農村型選挙区は33%となる。

また、連邦下院議員選挙(1979~1988)に頻繁に候補者を立てた部門による分類(C)では労働者選挙区は23%、農民選挙区は12%、一般部門選挙区は65%である。

選挙区についてのこの三つの分類(A,B,C)を基礎に、次の4つの問題を分析できる。まず、1979~1988期のPRI支持票の推移である。この問題はに関しては、1979年、1982年、1985年選挙までは緩やかな下降的傾向を示していたが、1988年には劇的な低下を記録した(図5)。

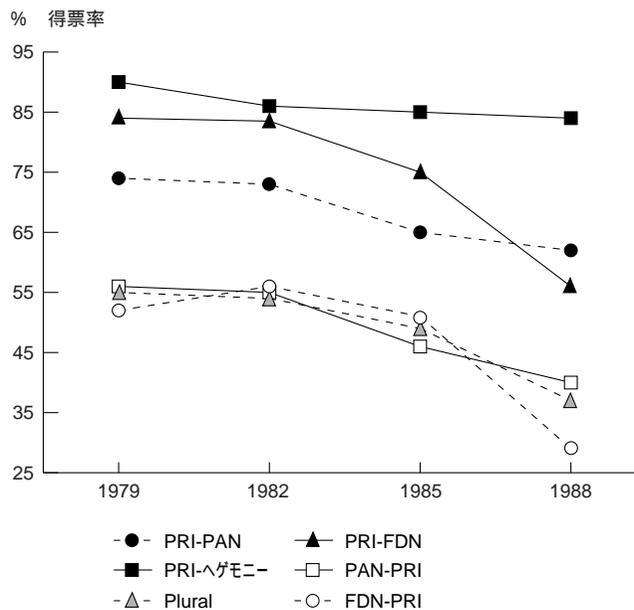
次に、労働者部門と一般部門に支配された「要塞選挙区」は、PRIの全般的傾向に近かった。農民部門が支配する「要塞選挙区」も同様の傾向であったが、その曲線は他の2部門よりも良好の状態にあった(図6)。



(出所) 表1に同じ。p.90.

図6 部門別のPRI得票 (1979年-1988年)

第3に、選挙区の都市-農村型の性格と下院議院候補者擁立を支配する部門との関係である。都市型、混合型、農村型選挙区におけるPRIへの投票傾向は、それぞれ相違はあるが、全国的



(出所) 表1に同じ。p.91.

図7 政党間競争類型別PRI得票 (1979年-1988年)

な傾向と同様な曲線の形を示している(図4)。

第4に、競争レベルから見た選挙区でのPRIの傾向を見ると、1985～88年のもっとも厳しい変化は、明らかにFDN-PRIとPRI-FDNのグループである(図7)²²⁾。

(3) 都市部におけるPRI支配の崩壊

最近の数十年の間にD.F.が体験した急速な都市化は、不規則な都市定住の拡大、とくにそのエヒード資格を失った土地への定住から起こっている。この発展は首都におけるPRIの選挙支配を再生産するメカニズムの機能を不安定化した。60年代初めから、D.F.における選挙ではPRIからの離反を示していたけれども、PRI組織の政治的ヘゲモニーを揺さぶる規模にまで至っていなかった。しかし、1988年には投票箱に駆けつけた首都の市民は、彼らの投票の27%をPRIに与えたと過ぎなかった²³⁾。

1985年の選挙結果と比較して、1988年連邦選挙においては、全国的規模で、とりわけ野党全体によって達成された競争性の視点から、政党への投票構造に著しい変化があった。D.F.において、これはPRIの側での得票の著しい喪失とFDN構成諸政党への支持票の著しい増加にあらわされた(表10)。

D.F.においてPRIはいつも全国的水準よりも低い支持しか獲得できなかった。その原因には、景気低迷やインフレ、都市中間層の拡大、カルデナス派政治エリートのPRIからの離反という政治的環境などが作用した。とりわけ、D.F.を中心とした国の中心的諸州でカルデナス候補は不満を促進する要素であり、不満を結びつける触媒的役割を果たした。

さらに、1988年に起こったことを説明する他の要素は、都市化の過程が政治的仲介メカニズムに与えた混乱や政治的仲介形態に影響を与えた社会的変化である。すなわち、大衆地域の都市カシーケの解体、そして、PRIのための主要な選挙動員メカニズムの一つの解体であった。このことは、またPRI票の強力な崩壊にも影響を与えた。この新たな形態は投票の触媒的代理人としての伝統的な都市リーダーの崩壊過程をも起こした。この過程は、コーポラティズム型

表10 連邦区(D.F.)における下院議員選挙(1985年, 1988年)選挙結果(%)

政党	1985	1988	変化(1988-1985)
PRI	47	28	- 19
PAN	24	24	0
FDN*	22	46	+24
その他**	7	2	- 5
合計	100	100	

1985年はPSUM(メキシコ社会主義統一党)、PPS、PARM、PMT各党の合計。

1988年はPMS、PPS、PFCRN、PARM各党の合計

PRT(革命的労働者党)とPDM(メキシコ民主党)

(出所)表1に同じ。p.204.

官僚が統制できない新しい形態の都市—人民運動の出現，新しい市民活動の出現との相互に関連している。

1988年7月の大統領選挙において，PRIの伝統的選挙マシンは挫折した。カルデナス派とPANとの競争において，PRIは少なくとも情況的にはそのヘゲモニーを失った。大統領選挙の正統性は問題とされた。誰も予期しなかった規模のこの崩壊は何によるのであろうか。パチェコは選挙区の性格による分類（都市型，混合型，農村型）を1変数として，PRIが獲得した得票を次のように説明する²⁴⁾。

PRIは農村型選挙区と若干の混合型選挙区において高い得票水準を維持しているが，都市型選挙区ではその成果は低かった。言い換えれば，都市型選挙区は大変強力な野党，カルデナス派とPANの支持基盤であった（表11）。PRI支持票の全般的な下降傾向は1988年に際だった。この傾向の中で，PRI支持の最も低いレベルは都市型選挙区で記録されている。1985年から1988年の期間の大きな選挙上の破綻に関しては，FDN-PRI選挙区と労働者部門に支配された選挙区が最も厳しかった。

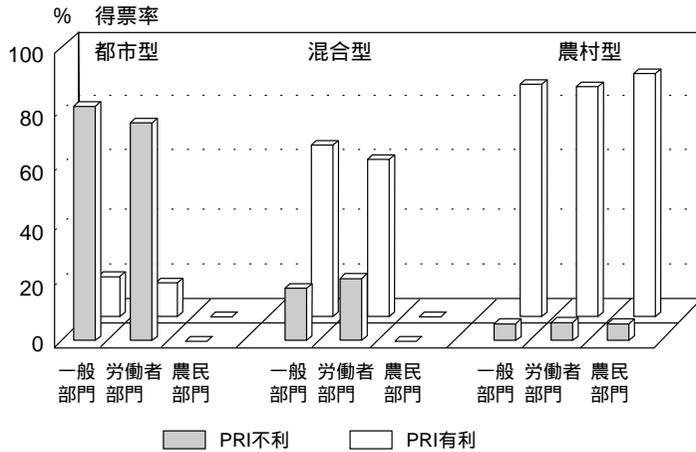
表11 1988年選挙結果（選挙区類型と競争関係）

競争関係の特徴	都市型	混合型	農村型
高い競争関係			
多面的	42 %	20 %	3 %
FDN-PRI	29 %	13 %	6 %
PAN-PRI	15 %	3 %	0 %
低い競争関係			
PRI-PAN	7 %	14 %	7 %
PRI-FDN	6 %	34 %	44 %
PFI-ヘゲモニー的	1 %	16 %	40 %
合計	100 %	100 %	100 %

INEGI, X Censo General de Población (1980) および Comisión Federal (13 de julio de 1988) の各データにより Paceco 作成。(出所) 表1に同じ。p.95.

PRIへの投票の劇的な崩壊は，3部門によって道具化された選挙動員システムが既に決定的に混合型および都市型選挙区において機能しなかったことを明らかにした。3部門のうち，農村型選挙区においてのみが，都市の投票の否定的影響を和らげて，選挙過程への保護的・統制的機構の戦略的後衛部隊を当てにできた。1988年には，PRI支持票の低下傾向が強まり，コーポラティズム型得票の維持にとってこの変化は決定的となった。

結局，労働者部門と一般部門は大都市，およびある程度は小都市を含む混合型選挙区において厳しい逆境を蒙った。メキシコ，グアダハラ，ティファナ，メヒカリのような大都市での崩壊はそれを示している。ゲレロ，ミチョアカンといった農村型および混合型選挙区でも同様であった。両部門は，PRIの農村の後衛舞台のおかげで部分的に立ち直ることができた（図8）。



(出所) 表1に同じ。p.98.

図8 部門別・選挙類型別の選挙行動(1979年-1988年)

2. 88年選挙結果と労働組合

デラマドリ政府の労働政策は、半世紀にわたりメキシコの政治的・経済的秩序維持を支えてきた国家-労働同盟に厳しい打撃を与えることになった。1982年以降の経済危機は、労働者の抵抗能力を弱めたが、同時に彼らの不満をなだめることは困難な事態になった。歴史的に形成された国家-労働者関係も70年代以降、産業近代化と産業構造の変化により客観的には再規定を迫られていた。また、組合内部の動員力、組織力からみてもCTMは多くの構造的・組織的弱点を持つようになっていた。たとえば、CTM加盟諸組合の規模が小さいこと(1978年における1企業平均組合員数は129.1人)、基幹産業での低い組織率、機能的に異質な組織構造(機能および部門の点で)、企業レベルでの代表構造の弱さ、組合指導者と一般組合員とを結びつける組織的枠組みの欠如などがあげられる²⁵⁾。

こうした、国家-労働関係の不安定化の流れの中で、PRI敗北の政治的結果は深刻であった。というのは、その部門間でその結果が“平等に”示されていないからである。PRIの最も弱い部門である農民部門は、崩壊を免れた。なぜなら、それは明らかに野党が弱体な農村の選挙区に含まれていたからである。それゆえ、その候補者をたてた76選挙区のうち5選挙区を失ったにすぎなかった。PRI候補者の党内選出過程においてもっとも利益を得た一般部門は、158候補者のうち41候補者を失った(ほぼ4人に1人)。同じく労働者部門は66候補者と与えられたが20候補者が敗北した。このことは、そのリーダーの30%を失ったことを意味した。組合指導部にとっては厳しい不安であった²⁶⁾。

さらに、労働者部門の場合、その敗北は悲痛なものであった。なぜなら、メキシコの組合構造における重要な指導者を含んでいたからであった。アルトゥーロ・ロモ(主要なイデオロー

グ), フェリクス・ラサロ・ビゲラス (CTM - グレロ州リーダー), フォセ・アルフレド・マルチネス (CTM - ハリスコ州リーダー), おまけに, 首都圏のCTMリーダー, ホアキン・ガンボア・パスコエはD.F.の上院議員に落選した。全体として, CTMあるいはCTM加盟の全国的産業組合に与えられた50候補者のうち, 16候補者が敗北した²⁷⁾。

こうした労働者部門敗北は, PRIにとって重大な政治的意味をもった。まず, PRI内部の規律への影響である。労働者部門はかなり以前から政治システムの再正統化にむけた改革の導入にもっとも厄介な部門であった。第二に, PRI財政への影響がある。PRIはこの部門に財政的に依存してきたという事実がある。第三に, 当然, 労働者統制メカニズムが不安定化する。さらに, 与党議会フラクションの間の均衡に変更をもたらした²⁸⁾。

組織労働者はサリーナスの大統領候補指名にもともと反対していた。この意味では, 彼の指名決定自体が党内における伝統的組合指導者の敗北でもあった。また, 石油労働者連盟の指導者は, 組合員がPRIの候補者を支持することの是非を問い不満を表明していた²⁹⁾。

3. 88年選挙の歴史的意義

1988年選挙はコーポラティズム型部門別投票動員システムの終焉を意味するのであろうか。1988年の選挙危機は二つの重大な側面を持っている。一つは, 選挙制度および政党システムを定めている公式・非公式な基準全体の正統性の危機であった。いわば, ヘゲモニー政党制の可能な諸条件の破綻であった。もう一方は, コントロールの危機を生み出しつつあったことであった。なぜなら, PRIはその歴史上はじめて, この党の敗北が実現可能な一つの選択肢である状況に直面したからである³⁰⁾。

第一の危機は, 基本的には政府の党エリートと反対派との間の政治的合意の分裂過程の結果である。二番目の危機は政権党に反対票を投じた広範な層の有権者の激しい動員の結果として考えられる。エリート間の政治闘争過程の一部としての政党制の危機は, 選挙前から行われていたし, 鋭くなっていた。この過程の基本的部分はチワワ知事選挙キャンペーンとPRI大統領候補指名のあいだに起こった。この流れの中で, 党エリートの鋭い政治的再編が起こった。

民主的潮流は, 1987年の大統領候補指名プロセスを変えることはできなかったが, 広範な政治的・社会経済的改革に向けての多階級の反対同盟を形成した。大統領権力の集中, 政府の腐敗, 不正選挙に対するFDNの批判は幅広い大衆的支持を受けた。とりわけ, 都市中間階級の間でその支持は強かった。PRIへの不満を吸収し, 動員するためのFDNと他の野党の努力が, 88年選挙をメキシコ史上最も激しい選挙にし, PRIの正統性を一層掘り崩し, 権威主義体制の終焉に向けての決定的契機となった³¹⁾。

「いずれにしても, 1988年にはメキシコ選挙史上, 一つの里程碑を画した。制度的革命党は, その創設以来はじめてそのヘゲモニーが強力に挑戦されたからである。こうした状

況の結末は、ヘゲモニー政党レジームから別の優位政党レジームへの移行の出発点に我々を置くことになる。まだPRIが過半数を維持しているが、ローカルならびにリージョナルな環境においては極めて高い競争性があり、PRIに替わる可能性が開かれている」³²⁾

しかし、88年以降の経過が示すように、ヘゲモニー政党制の破綻から民主的な体制への移行は困難過程を伴った。この困難さを政治学者、ホルカシタスは、移行を条件づける三つの政治問題に図式化している。第一に、カルデニスマの形式で結集した広範な政治運動の非組織性が提起する問題。第二に、政党間競争と政党の分派間の内部闘争という点での不安定な均衡の問題。第三に、選挙の正当性への疑問とそこから生じた権威の正統性への疑問である³³⁾。これらに加えて、全国連帯計画(PRONASOL)に代表されたサリーナス政権自体の国家-社会関係再構築の戦略が注目されなければならないであろう³⁴⁾。以下、サリーナス期の選挙プロセスを検討する。

注

- 1) Gómez Tagle, Silvia (coord.), 1994: *Las elecciones en los estados (vol.1)*, La Jornada Ediciones, 1997, p.7.
- 2) Whitehead, Laurence, “ Las peculiaridad de una ‘ transición ’ a la mexicana ” en *Este país*, núm., 40, julio, 1994, p.26.
- 3) 本稿執筆にあたり、メトロポリタン自治大学のグアダルペ・パチェコ・メンデスの研究およびデータが大いに参考になった。彼は、ヘゲモニー政党であるPRIを形成する多様な政治主体を選挙顧客として動員する諸要素を分析することにより、単に選挙制度や選挙結果の考察にとどまらず政党再編や政党制の検討、さらには政治システムの展望(民主化への移行状況と条件など)をも示唆するものとなっている。彼の分析は、メキシコ社会の特徴であった国家コーポラティズムを踏まえたものであり、その統制・動員メカニズムの有効性と選挙過程の関連性が重視される。その結果、基本的な分析は、クライアント型選挙動員機構の能力、コーポラティズム型協定に関する構成員(農民部門、労働者部門、一般部門)間の力関係、そして、都市化の進行と農村人口の縮小を背景とした都市と農村における異なる選挙行動の型を測定するアプローチが採用されている。さらに、選挙区の分類、政党間競争の類型化も行っている。こうした研究成果は本稿において大いに参考になった(Pacheco Méndez, Guadalupe, *Caleidoscopio electoral: Elecciones en México, 1979-1997*, México, D.F., Instituto Federal Electoral / Universidad Autónoma Metropolitana / Fondo de Cultura Económica, 2000.)

なお、パチェコは選挙結果の定量分析の方法と意義について次の点に要約している。

現実の選挙結果の研究を政治的転換過程に集中した理論的パースペクティブの中で問題視しなければならない。このパースペクティブにおいて、権威主義から民主主義への移行に焦点を合わせた研究、ならびに選挙参加のテーゼと結びついた研究が有益である。

この枠組みはどんな種類の選挙データを我々が構築したいのかを決定するための基準となるであろう。そして、データ構造の調査を我々に可能にする史料仮説と統計上の技術を支える。

これは、我々が最も有意なものであるとして検出する現実の諸側面を分析するのに最も適切な

統計上の新しい操作方法を認識し、素描することを可能にする。すなわち、ここには、われわれの選挙システムや政党システムならびに移行途上にある様々な状況がわれわれに提起する測定の特異な問題を解決するための固有の想像力が関係している (*Ibid.*, pp.22-23.)

- 4) このモデルが十分に機能するためには次に前提条件が必要である。すなわち、それほど複雑でなく、多様でもない社会構造の存在、受動的で、伝統的な諸価値に執着する政治文化の存在 (この政治文化は、一般的には農村社会、あるいはまだ都市化過程が始まっていない社会で残っている)、リーダーたちの十分な社会的職務代行機能を認めるのに有利な経済環境。それは慈善的・請負的地位 (状況) を想定していた。リーダーたちの調停能力を超える社会的圧力や運動の欠如、そして、地方中間リーダー、党や部門の中央指導部、連邦レベルの政府官僚の間の利害の一致、などが前提条件とされていた (*Ibid.*, p.79.)
- 5) *Ibid.*, pp.27-50.
- 6) *Ibid.*, p.39.
- 7) PRI内の新たな権力ネットワークの形成は、新自由主義諸勢力と諸政策の影響力の増大を背景に生まれた。その結果、権力構造とそのネットワークのテクノクラート化として現れた。詳しくは、以下の文献を参照。Centeno, Miguel Ángel, *Democracy Within Reason: Technocratic Revolution in Mexico*, Pennsylvania, The Pennsylvania State University Press, 1994. Espinosa, Eduardo Torres, *Bureaucracy and Politics in Mexico: The Case of the Secretariat of Programming and Budget*, Brookfield, Ashgate, 1999. 拙稿「メキシコ官僚制試論 メキシコ社会変動とテクノクラート」(『政経論叢』第65巻5・6号, 1997年)および「グローバリゼーションとメキシコ権力構造の再編 官僚機構のテクノクラート化をめぐる」(『政策科学』8巻3号, 2001年)
- 8) Pacheco Méndez, *op.cit.*, pp.44-45.
- 9) Molinar Horcasitas, Juan, *El tiempo de la legitimidad: Elecciones, autoritarismo y democracia en México*, México, D.F., Cal y arena, 1991, pp.137-146.
- 10) 1978年に政治改革が実施され、一定の自由化局面が開かれた。この中心的な内容は憲法17条の改正と追加、および「政治結社ならびに選挙手続に関する法 (LOPPE)」の制定による政治団体と政党の合法化ならびに下院の改革にあった。この結果、メキシコ共産党 (Partido Comunista Mexicano: PCM)、勤労者社会党 (Partido Socialista de los Trabajadores: PST)、メキシコ民主党 (Partido Democrático Mexicano: PST) が合法化され、選挙に参加するようになった。その後、1982年にメキシコ革命党 (Partido Revolucionario Mexicana: PRM) が選挙に参加するが、メキシコ真正革命党 (Partido Auténtico de la Revolución Mexicana: PARM) は登録を抹消された。さらに、1985年、メキシコ労働者党 (Partido Mexicano de los Trabajadores: PMT) が選挙登録を獲得し、また PARM の選挙登録が復活した (拙稿「転換期のメキシコ 1970年代のメキシコ社会の変容と国家」(『月刊アジア・アフリカ研究』295-296号, 1985年, 参照))
- 11) Molinar Horcasitas, *op.cit.*, pp.158-164.
- 12) Pacheco Méndez, *op.cit.*, p.164.
- 13) Fox, Jonathan, "The Difficult Transition from Clientelism to Citizenship", in *World Politics*, No.2, 1994, p.153.
- 14) 都市型選挙の重要性から三つの水準が分類されている。その中核としての第一水準には、メキシコ市首都圏、グアダハラハラ、モンテレイがある。第二水準はプエブラ、レオン、ティファナ、シウダッド・フォアレスの諸都市、さらに第三水準には以下の24都市がある。アグアスカリエンテ

ス、メヒカリ、サルティジョ、トレオン、モンクロバ、チワワ、ドゥランゴ、イラブアット、アカブルコ、モレリア、クエルナバカ、ケタロ、サンルイス、クリアカン、エルモシジョ、シウダッド・オブregon、ヌエボ・ラレド、タンピコ、マタモロス、ヴィクトリア、ベラクルス、ボサリカ、ハラッパ、メリダ。

この点に関して若干の特徴に触れておくと、第一に、116の都市選挙区のうち80都市選挙区は諸首都圏に集中している。メキシコ、グアダハラでのPRI得票率は80年代、50%以下である。第二に、モンテレイは82年以降60%以上を維持しているが、それは高い棄権率によるものであった。第三に、第三水準の24都市のうちプエブラ、レオン、ティファナ、シウダッド・フォアレスでは、1979年から82年の間、高いPRI票が記録されたが、1985～88年は減少している(Pacheco Méndez, *op.cit.*, pp.166-67)。

15) *Ibid.*, 169.

16) *Ibid.*, 80.

17) 政治家とテクノクラートの分裂は、C.カルデナスやムニョ・レドに指導された「民主的潮流」(Corriente Democrática: CD)とPRI内テクノクラート派との対立・抗争、そして分裂となって現れ、民主国民戦線(Frente Democrático Nacional: FDN)の結成へと発展していった。Middlebrook, Kevin J., "Dilemmas of Change in Mexican Politics", in *World Politics*, No.1, 1988. Fonseca Villa, José J., et.al., *Corriente Democrática: Alternativa frente a la Crisis*, México.D.F., Costa-Amic Editores, 1987.および拙稿、前掲論文「メキシコ官僚制試論—メキシコの社会変動とテクノクラート—」参照。

18) この時期の多様な社会運動については、とりあえず、以下の文献を参照のこと。La Botz, Dan, *Democracy in Mexico: Peasant Rebellion and Political Reform*, Boston, South End Press, 1995. Castañeda, Jorge G., *La utopía desarmada: intrigas, dilemas y promesa de la izquierda en América Latina*, México.D.F., Editorial Joaquín Mortiz, 1993. 拙稿「メキシコにおける公共空間の創出と新しい社会運動—1985～1995を中心にして—」(『人文科学研究所紀要』77号, 2001年)

19) FDNに結集した諸政党は、人民社会党(Partido Popular Socialista: PPS), 国家再建カルデニスタ戦線党(Partido de Frente Cardenista de Reconstrucción Nacional: PFCRN), メキシコ社会党(Partido Mexicano Socialista: PMS), PARMである。

20) Gómez Tagle (coord.), *op.cit.*, pp.7-8.

21) Pacheco Méndez, *op.cit.*, pp.85-86.

22) *Ibid.*, pp.88-89.

23) *Ibid.*, pp.199-200.

24) *Ibid.*, pp.94-97.

25) Middlebrook, *op.cit.*, pp.136-138.

26) Molinar Horcasitas, *op.cit.*, p.223.

27) *Ibid.*

28) *Ibid.*, pp.223-224.

29) Middlebrook, *op.cit.*, p.201. サリーナスは大統領就任後、労働組合との従来の関係を根本的に見直した。新自由主義的経済プログラムの実施のためにもこの関係の見直しが必要であった。国営企業の民営化、外国投資の奨励、多国籍企業とメキシコ企業の関係強化、NAFTA推進などの諸政策は、労働者の生活に不安を及ぼすだけでなく、組合官僚の既得権益を堀崩すからである。メキシ

コ・ナショナリズムのシンボルであったメキシコ石油公社（PEMEX）の石油労働者組合（STPRM）への攻撃はその第1歩であった（拙稿，前掲論文「メキシコにおける公共空間の創出と新しい社会運動 1985～1995を中心にして」参照）。

30) Molinar Horcasitas, *op.cit.*, p.172.

31) Middlebrook, *op.cit.*, p.133.

32) Pacheco Méndez, *op.cit.*, p.52.

33) Molinar Horcasitas, *op.cit.*, p.234.

34) この戦略については，Cornelius, Wayne A., Craig, Ann L., and Fox, Jonathan (eds.) , *Transforming State-Society Relations in Mexico: The National Solidarity Strategy*, University of California, San Diego, Center for U.S.-Mexican Studies, 1994. が基本的研究の一つである。また拙稿「メキシコにおけるネオリベラリズムと市民社会の交差 全国連帯計画（PRONASOL）をめぐる」（『立命館国際研究』14巻2号，2001年）でも論じている。

（MATSUSHITA, Kiyoshi 本学部教授）